

臨床腫瘍科

1. スタッフ（平成26年4月1日現在）

診療科長（教授） 藤井 博文
 病棟医長 藤井 博文
 医員（講師） 上田 真寿
 医員（助教） 今高 博美
 病院助教 森 美鈴

2. 診療科の特徴

平成18年4月に臨床腫瘍部、同年6月から臨床腫瘍科として7年目を迎えた。消化器外科・内科、耳鼻咽喉科、等と連携しており、これらの科に関連した頭頸部癌、乳癌、肺癌、消化管癌、胆・膵癌、原発不明癌、重複癌などを取り扱い、臓器横断的に薬物療法、集学的治療を行っている。

業務の主体は外来診療で、多彩な化学療法を多数行っており、外来治療センターを看護師、薬剤師、臨床心理士などのコメディカルの参加によるチーム医療をもって運用している。入院はCVポート留置と初回化学療法導入を目的とした大腸癌症例、胃癌の短期入院、食道癌の化学療法、化学放射線療法症例がほとんどを占める。

薬物療法としては内分泌治療、化学療法、分子標的治療があり、集学的治療としては放射線治療部との協力による頭頸部癌・食道癌に対する化学放射線療法、消化器外科との協力による食道癌・胃癌・大腸癌・膵癌などの周術期の化学療法などを担当している。

対象が進行した癌であるため対症療法・緩和ケアへ移行する症例が多く、がんに対する治療中も積極的に対処すると共に、緩和のみの時期へ移行した場合は緩和ケア科や近隣の病院との連携で対応している。

臨床研究としては、消化器外科、放射線科と連携し各種の多施設共同試験に参加している。治験に関しても、消化器外科・内科、耳鼻咽喉科との連携で新薬の開発試験を行っている。また、最近のトランスレーショナルリサーチの重要性から、病理部には日常臨床における個別化への対応を含め年々連携を深めてきている。

教育としては、文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」採択事業である当学の「全人的ながん医療の実践者養成」と、平成24年からの「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」採択事業で東大・横浜市大・東邦大と連携した「がん治療のブレイクスルーを担う医療人育成」の中、当学では「総合医・地域腫瘍学コース」臨床腫瘍学講義を運営し、腫瘍学実地研修の場を提供している。

がん患者が増え続ける中、がん診療の質の向上も要求されており、がん診療連携拠点病院として当院の活動の

中心的な部署として位置している。

・認定施設

日本臨床腫瘍学会認定施設

・認定医

日本内科学会 認定医 上田・今高
 日本消化器病学会 専門医 今高
 日本外科学会 専門医 森

3. 診療実績

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数	再来患者数	紹介率
50人	8,088人	52.3%

2) 入院患者

3) 手術症例

4) 治療成績

解析に至らず

5) 合併症例

6) 死亡症例・死因・剖検数

死亡症例数
 死因 現病死
 剖検 0

7) 主な化学療法、治験実施件数

CDDP/GEM	13名
CET	27名
CET/CPT	1名
CPT	34名
CPT/HER	2名
CPT/CDDP	10名
CPT/PANI	10名
FOLFIRI	6名
FOLFIRI/BEVA	33名
FOLFIRI/PANI	1名
FOLFOX6	18名
FOLFOX6/BEVA	36名
FOLFOX6/PANI	1名
GEM	80名
GEM/ERL	2名

PANI	13名
sLV5FU2	6名
sLV5FU2/BEVA	13名
XELOX	9名
XELOX/BEVA	7名
XP+HER	3名
(治験) FOLFIRI+ラムシルマブ	3名
(治験) ラムシルマブ	3名
(臨床試験) FOLFOX6+CET	12名

8) カンファランス

- (1) 診療科内 随時
- (2) 他科・他部署との合同

毎朝	消化器外科、乳腺外科術前カンファレンス
毎週水曜	肝・胆・膵カンファレンス
毎週木曜	大腸癌カンファレンス
毎夕	外来治療センターカンファレンス

4. 事業計画・来年の目標等

- ①安全かつ効率的な外来化学療法実施体制の更なる整備と拡大
- ②臓器、診療科横断的なCancer Board Conference による院内のがん医療の均てん化の推進
- ③緩和ケア科、精神腫瘍部との連携強化
- ④「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」を基本とした、医師やコメディカルに対するがん医療の教育
- ⑤学部教育への積極的な参加による卒前がん教育充実への貢献
- ⑥がん領域の臨床試験・治験実施体制の整備と推進
- ⑦がん診療連携拠点病院としての周辺地域医療機関への教育・協力と病診連携の構築
- ⑧地域住民に対する市民公開講座によるがん医療に関する啓蒙活動
- ⑨医局員の確保